

2012 年 宮崎県母性衛生学会

## 「分娩数の多い 1 次医療施設での母乳育児の現状と今後の課題」

医療法人社団会政彬会 野田医院

○川越 裕子、高野 和代、前田 琴美

### 【目的】

当院における母乳育児の現状と今後の援助に対する課題を明らかにする。

### 【方法】

調査対象：2012 年 1 月下旬から 3 月末までに入院した母親の母乳に関する看護記録(139 名)の分析。

調査内容：母乳希望の有無・妊娠中の乳頭の手入れ・産後の栄養方法など。

調査方法：入院中の助産師の記録及び、外来における担当スタッフの記録を分析した。

統計処理は EpiInfo Version3.5.5 を使用した。

### 【結果】

産褥 4～5 日目の母乳率は 29%であったが、1 か月健診時には 63%であった。調査項目ごとに  $\chi^2$  検定を行うと、当院で出産した人、経産婦、分娩直後より母乳育児を希望していた人は、1 か月の時点で有意に母乳栄養になっていた( $P < 0.01$ )。乳頭の形態、妊娠中の手入れの有無では、1 か月の時点で有意な差はみられなかった。

### 【考察】

2008 年の村井らの研究では、当院と同じような母乳育児支援を行っている施設では、1 か月の母乳率は 41.1%であり、当院の母乳育児率 63%はこれをはるかに超えていた。初産婦や 2 次医療施設で出産した人は、特に入院中・産後の支援が必要となる。